

祁答院地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	地区振興計画	H18当初予算	H19当初予算	H20当初予算	H21当初予算	H22当初予算	H23当初予算	事業完了			
H17	1	轟	地区振興計画とむらづくり活性化計画との整合性	コミュニティ課	むらづくり活性化計画を踏まえた地区振興計画の策定をお願いしたい。	轟地区の地区振興計画については、H17、10月に策定済み。		H17、10月に策定済み。												○		
H17	2	轟	集落道(轟木線、世永瀬線、末吉線)・農道(鍋田線、宇都前線、西ヶ追線)の整備	耕地課	県営中山間地域総合整備事業での採択は難しい。農業生産基盤事業の拡充を図り、再度協議していききたい。	中山間地域総合整備事業での採択を検討した結果、轟木線、宇都前線、西ヶ追線については計画路線として掲載された。他の3路線については今のところ計画していない状況である。		轟木線は平成19年度測量設計が終了、西ヶ追線は、平成20年度測量設計の予定、宇都前線については、ほ境整備と同時に実施する予定になっており、検討中である。	轟木線については平成20年度工事完了・西ヶ追線については測量設計済で用地交渉中・宇都前線は圃場整備との関連から調整中、世永瀬線、末吉線、鍋田線の3路線については、現在事業計画はありません。	轟木線については平成20年度工事完了・西ヶ追線については測量設計済で用地交渉中(困難)・宇都前線は圃場整備21年度工事完了、世永瀬線、末吉線、鍋田線の3路線については、現在事業計画はありません。	轟木線については平成20年度工事完了・西ヶ追線については測量設計済で用地交渉中(困難)・宇都前線は圃場整備21年度工事完了、世永瀬線、末吉線、鍋田線の3路線については、現在事業計画はありません。									○		
H17	3	轟	宅地分譲・市営住宅の建設	企画政策課	民間業者との兼ね合いや、現在市で管理している宅地は売れ残っている状況から、宅地分譲を市で行う予定はない。	現時点では宅地の新規造成分譲を行う予定はないが、定住促進部会等で検討する。		現時点では新規造成分譲を行う予定はない。													○	
H17	3	轟	宅地分譲・市営住宅の建設	建築住宅課	新規住宅の整備は難しい状況。民間活力を活用した借り上げ方式による住宅整備を検討したい。	借上型住宅の整備には、まず地元からの要望が不可欠であるが、地元の入居希望者の状況を伺いながら検討して参りたい。		借上型住宅の整備については、地元からの要望及び入居希望者の状況を伺いながら検討して参りたい。	借上型住宅の整備については、地元からの要望及び入居希望者の状況を伺いながら検討して参りたい。	地域振興住宅建設について、現在、教育委員会が進めている「小・中学校の再編に関する基本方針(案)」等を参考に、平成22年度に実施予定の「市営住宅等長寿命化計画」の中で検討していききたい。	平成22年度で策定した市営住宅等長寿命化計画の、概ね5年後の見直しに合わせて借上型一般住宅での整備を検討することとした。											○
H17	4	轟	自主防災組織への支援内容	防災安全課	結成時にハンドマイク1台、避難誘導旗2本1組を貸与。平成17年度中に各地区コミセンに救急箱を配付予定。	結成時にハンドマイク1台、避難誘導旗2本1組を貸与。平成17年度中に各地区コミセンに救急箱を配付した。また、自主防災組織の活動見本となるパンフレットを各自自治会長へ配布した。		結成時：ハンドマイク1台、避難誘導旗2本1組を貸与。運営・活動：自主防災組織の運営・活動についての出前講座を実施し、支援・協力しています。	結成時：ハンドマイク1台、避難誘導旗2本1組を貸与。運営・活動：自主防災組織の運営・活動についての出前講座を実施し、支援・協力しています。結成後は、消防局と連携しながら活動支援(訓練指導等)を行っております。	結成時：ハンドマイク1台、避難誘導旗2本1組を貸与。運営・活動：自主防災組織の運営・活動についての出前講座を実施し、支援・協力しています。結成後は、消防局と連携しながら活動支援(訓練指導等)を行っております。											○	
H17	4	轟	無線連絡システム整備の平成18年度からの補助対象地域としてほしい	防災安全課	平成22年度に、祁答院地域にデジタル無線設備を整備する計画があるので、市で整備するまで待つていただきたい。	現在、防災行政無線の整備について調査・検討中であるので、決定するまで今しばらく待つてもらいたい。		平成19年度末に基幹部(親局から屋外拡声子局)に係る入札を実施。平成20年度に基幹部の整備を行い、その後、全戸に戸別受信機(地域内限定放送を可能なもの)を整備する考えである。	平成21年度から平成25年度にかけて、自治会放送が可能な戸別受信機の整備を計画しており、今後、機能並びに仕様について調査・研究のうえ、機種選定を行う予定であります。	平成22年度から平成25年度にかけて、自治会放送が可能な戸別受信機の整備を計画しています。	補助金制度としては、「広報用放送施設設置事業補助金」がありますが、既設の放送設備の改良を行う場合の運用を基本と考えております。しかしながら、市内全戸への戸別受信機の整備は最長5ヵ年必要とすることから、早急な整備を希望される自治会等につきましては、機種選定が終了した、平成22年度以降において、個別に調整させていただきたい。											○
H17	5	轟	高台地区の簡易水道の補強(水量不足)	上水道課	今後水圧調査を行い、何らかの対策を検討していく。	水圧調査実施済。増圧ポンプ設置用地を確保し、現在設計段階である。10月中の発注を目指している。		平成18年度完結													○	
H17	6	黒木	1戸建て公営住宅の整備及びミニ分譲宅地の造成	企画政策課	民間業者との兼ね合いや、現在市で管理している宅地は売れ残っている状況から、宅地分譲を市で行う予定はない。	現時点では宅地の新規造成分譲を行う予定はないが、定住促進部会等で検討する。		現時点では新規造成分譲を行う予定はない。													○	
H17	6	黒木	1戸建て公営住宅の整備及びミニ分譲宅地の造成	建築住宅課	新規住宅の整備は難しい状況。民間活力を活用した借り上げ方式による住宅整備を検討したい。	借上型住宅の整備には、まず地元からの要望が不可欠であるが、地元の入居希望者の状況を伺いながら検討して参りたい。		借上型住宅の整備については、地元からの要望及び入居希望者の状況を伺いながら検討して参りたい。	借上型住宅の整備については、地元からの要望及び入居希望者の状況を伺いながら検討して参りたい。	地域振興住宅建設について、現在、教育委員会が進めている「小・中学校の再編に関する基本方針(案)」等を参考に、平成22年度に実施予定の「市営住宅等長寿命化計画」の中で検討していききたい。	平成22年度で策定した市営住宅等長寿命化計画において、この地域は民間の空き家を借上げ、活用を図ることとした。今後、地区コミと協議して事業を進めたい。											○
H17	6	黒木	地区児童クラブの運営助成	子育て支援課	平成16年度の額には届かないが、平成17年度当初の額からは増額できる見込み。具体的な金額や時期が分かり次第連絡したい。	17年12月に補正増額した。		児童クラブに対しては、県の補助事業として取り組み、県の要請に基づき、公平・平等に助成を行うとともに予算措置しているところである。														○
H17	7	黒木	県道堂山宮之城線及び川内祁答院線の未整備地区の早期整備	建設政策課	堂山宮之城線について、平成18年度以降に要望区間の整備ができないかと県と協議したい。川内祁答院線については、用地確保の自覚がつけば、県に要望を行いたい。	平成18年度一部着工予定である。		「事業中箇所」の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答、今後も要望を継続していききたい。	H20年度分回答のとおり	「事業中箇所」の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答、今後も要望を継続していききたい。	回答のとおり											
H17	8	黒木	地域内の福祉団体の自主運営活動への支援	高齢・障害福祉課 子育て支援課	市町村合併の動きに合わせ、市域内の類似団体が統合・合併に向けた協議を積極的に進めていただくことで、組織の衰退防止になるのでは。	身障福祉協議会、母子寡婦会は合併済、老人会は藤原川内老人クラブ連合会として広域的に合併済み		—													○	
H17	8	黒木	地域内の福祉団体の自主運営活動への支援	高齢・障害福祉課	市町村合併の動きに合わせ、市域内の類似団体が統合・合併に向けた協議を積極的に進めていただくことで、組織の衰退防止になるのでは。	類似団体との統合による自主運営を図っていただくことにより、必要ないものと考えている。		身障福祉協議会は合併済、老人会は藤原川内市老人クラブ連合会として広域的に合併済。														○
H17	9	黒木	農業会社の事業内容	農政課	新規就農者の育成・農作業の受委託・農地保有合理化を主要事業としている。	新規就農者の研修事業は平成17年度3名の応募があり研修を実施している。農作業受委託作業については、水稻の防除を中心に、ライスセンター・茶工場との作業を実施している。初年度計画についてはほぼ達成している。農地流動化については、県の農地流動化合理化法人の認定を受けた後、認定農業者を中心に担い手に農の流動化を推進している。		新規就農者の研修事業は、2名が研修を終了し就職している。農作業受委託作業については、水稻防除を中心にほぼ計画とおり達成している。農地流動化については、推進活動を展開している。														○
H17	10	上手	大村高校跡地の有効活用について	財産活用推進課	旧祁答院町の「保健医療福祉の誘致」という方針を受け継ぎ、地域の意見も参考にしながら、温泉掘削工事の結果を踏まえて考えていきたい。	保健・医療・福祉・健康に関する事業の用に供することを条件に売却することとしている。 現地説明会：平成18年4月25日(火) 入札執行日：平成18年7月13日(木) 最低売却価格：93,000,000円		当該土地については、地域密着型サービス事業用施設及び温泉施設の用に供することを目的に、平成19年度に売却した。 平成20年11月から施設運営開始予定である。													○	
H17	11	上手	桜公園整備の今後の見通し	建設整備課	芝生広場・東屋等は平成16年度にほぼ完了。公園に行くための久富木川への歩道橋整備については、財源や橋梁の位置等を踏まえて前向きに実施に向けて検討したい。	H17 整備済		平成18年度に護岸整備。平成19年度に取付道路及び防護柵整備。平成20年度にトイレ設置予定	平成20年度トイレ設置済、平成21年度給水施設整備予定	平成21年度給水施設整備済											○	
H17	12	上手	県道下山山田帖佐線の整備促進について	建設政策課	今後とも早期整備に向け要望活動を行ってまいりたい。	平成18年度一部着工予定である。		事業中(上手地区)・・・用地事務今後とも整備促進を要望していききたい。	H18年度分回答のとおり	事業中(上手区L=約850m H22年6月頃完成予定)	事業中(850m分は完成)											
H17	13	上手	分譲住宅の建設	企画政策課	市で分譲住宅の建設や宅地の造成を行う考えは今のところない。	現時点では宅地の新規造成分譲を行う予定はないが、定住促進部会等で検討する。		現時点では新規造成分譲を行う予定はない。													○	

祁答院地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	施設整備計画	H18年度初予算	H19年度初予算	H20年度初予算	H21年度初予算	H22年度初予算	H23年度初予算	事業完了日			
H17	14	大村	河川清掃の支援	建設維持課	作業可能な範囲で実施していただき、未作業区間については予算の範囲内で実施したい。	県管理河川の除草については、一部実施していただいておりますが、河床整備（浚渫）については、予算の都合もあり実施困難な状況にあるようです。市としても引き続き要望してまいります。市管理河川においては、年次的に予算の範囲内で実施する計画です。 (17年度実施) ・県管理（除草）久富木川の一部、瀬早川の一部 ・市管理（浚渫）宇ヶ石川の一部、井料川の一部		県管理河川の除草については、一部実施していただいておりますが、河床整備（浚渫）については、予算の都合もあり実施困難な状況にあるようです。市としても引き続き要望してまいります。市管理河川においては、年次的に予算の範囲内で実施する計画です。県管理河川の除草については、一部実施していただいておりますが、河床整備（浚渫）については、予算の都合もあり実施困難な状況にあるようです。市としても引き続き要望してまいります。市管理河川においては、年次的に予算の範囲内で実施する計画です。今後についても地元で対応できない箇所等については、県にもお願いしながら予算の範囲内で実施してまいります。														
H17	15	大村	水田の取水施設（井堰）の整備	耕地課	要望の箇所が一級河川であること、また過去の河川改修の際に補償された場所であること、井堰の設置による水利権等の問題があるため、河川管理者と協議を進めてまいります。	河川管理者（県土木事務所）に協議したところ過去に補償した経緯はあるものの、概略図等を用いて協議してほしいとのことであった。受益者の皆さんに協力いただきながら現地調査を行い協議を継続してまいります。		河川管理者（県土木事務所）と現地を調査した結果、地元からの要望箇所（青良原田）については、河床が低く転倒堰への要望については、構造上設置できない状況であると判断した。今後は、現在の場水機等の維持管理を行う農道・水・環境保全対策事業や中間直接支払い制度等を活用し診断や修繕等を行っていくよう地元への説明しご理解をお願いしたい。	H19年度末の回答と同じ	H19年度末の回答と同じ												
H17	16	大村	林道の整備（林道天理線から広段に抜ける林道の新設）について	林務水産課	当該地区は藤摩川内市森林整備計画及び藤摩川内市実施計画に登録していないため、早急の開設は難しい。	路肩の補修やぬかみについては、コンクリート舗装及び砕石等の散布予算で対応している。 完結		平成17年度の回答同様、当該地区は藤摩川内市森林整備計画及び藤摩川内市実施計画に登録していないため、早急の開設は難しい。	平成17年度の回答同様、当該地区は藤摩川内市森林整備計画及び藤摩川内市実施計画に登録していないため、早急の開設は難しい。	平成20年度末の回答と同じ												
H17	17	大村	大村団地の周辺整備（トイレ・桜の植樹等）	建設整備課	桜の植樹は、自治会や利用団体等で寄付していただければありがたい。トイレの整備については、分譲及び住宅の建築状況やゲートボール場の利用頻度をみながら財政状況等を踏まえて検討したい。	利用者状況をみながら検討する。		平成18年度に護岸整備、平成19年度に取付道路及び防護柵整備、平成20年度にトイレ設置予定	平成20年度トイレ設置済、平成21年度給水施設整備予定	平成21年度給水施設整備済												
H17	18	大村	大村町商店街とバイパス通りとの調和のとれた町並みの整備	商工振興課	イベントや地元の特産品を活かした事業や、観光地との連携を活かした集客の方法など、ソフト面から商店街の活性化を図っていただきたい。	ソフト面からの商店街活性化に向けて、商業者の取組みや行政の係わり方について、検討中である。		ソフト面からの商店街活性化に向けて、商業者の取組みや行政の係わり方について、検討中である。	ソフト面からの商店街活性化に向けて、商業者の取組みや行政の係わり方について、検討中である。	平成22年度に商店主を対象とした「商人（あきんど）塾事業」を実施。品揃え、販売及び購買促進、陳列や内外装の考え方などについて学んでいただいた。 ※平成22年10月開催 参加者23人 空き店舗対策として、店舗改装費の一部を補助する商業者支援事業（空き店舗対策事業）を実施。 ※利用実績なし ※対象業種：小売、飲食（居間中心）、理美容 補助限度額：50万円												
H17	19	大村	県道宮之城祁答院線の整備	建設政策課	県道整備は本庁と支所とを連絡する路線を優先して整備していただくよう県へ要望しているところである。地域の皆さんの力を借りながら、地権者の同意を得られるよう努めたい。	県の財政状況も厳しく、事業着手は、見通しが立たないが、今後とも強く要望してまいります。		「事業中箇所の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答、今後も要望を継続してまいります。	回答のとおり	回答のとおり												
H17	20	関牟田	関牟田千貫岩の落石防止対策	林務水産課	崩落防止の施工が県土木部及び川内農林事務所では実施できないとのことであったので、再度現地調査を行い、川内農林事務所と協議中である。	17年度表側については崩落防止工事実施。裏側については、18年度県営で実施予定。		県営での実施を要望しているが、実施は未定である。	県営での実施を要望しているが、実施は未定である。	平成20年度回答のとおり												
H17	21	関牟田	県道405号線（久富木～関牟田線）の道路改良の促進について	建設政策課	県道整備は本庁と支所とを連絡する路線を優先して整備していただくよう県へ要望しているところである。難合箇所の設置や15車線の整備などを協議・検討し、県に要望したい。	県の財政状況も厳しく、事業着手は、見通しが立たないが、今後とも強く要望してまいります。		「事業中箇所の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答、今後も要望を継続してまいります。	回答のとおり	回答のとおり												
H17	22	関牟田	市営住宅の建設または分譲宅地の造成	建築住宅課	新規住宅の整備は難しい状況。民間活力を活用した借り上げ方式による住宅整備を検討したい。	借上型住宅の整備には、まず地元からの要望が不可欠であるが、地元の入居希望者の状況を伺いながら検討して参りたい。		借上型住宅の整備については、地元からの要望及び入居希望者の状況を伺いながら検討して参りたい。	借上型住宅の整備については、地元からの要望及び入居希望者の状況を伺いながら検討して参りたい。	地域振興住宅建設について、現在、教育委員会が進めている「小・中学校の再編に関する基本方針（案）」等を参考に、平成22年度に実施予定の「市営住宅等長寿命化計画」の中で検討してまいります。	平成22年度で策定した市営住宅等長寿命化計画において、借上型一般住宅としての整備を検討することとした。時期等については、今後、地区コミと協議してまいります。											
H17	その他		農家への補助金を1人からでも受けられるようにしていきたい	農政課	持ち帰って協議し、地域によって取扱いを変えたい。なお、今後とも、個人でも実施したほうがより効果が高い補助事業については、随時検討してまいります。	国・県の補助事業については個人補助金は現在ない状況にある。個人については融資事業で対応している。市単独事業では認定農業者育成事業で、1名からの補助事業を実施している。		平成21年度からは、農業公社が事業主体となる。個人でも補助金が受けられる。「みんな地域農業活性化事業補助金」を創設したところである。														
H17	その他		商工会の合併に対する支援	商工振興課	問題があればぜひご相談ください。お互いに知恵を絞って、いい案が見出せるようにしたい。	平成19年4月1日の合併に向けて各商工会が積極的に協議を進めているところであり、合併に向けて市としても支援してまいります。		平成19年4月1日合併														
H18	1	黒木	今後の米政策改革は、話し合いをしながら再編が進められると説明を受けた。JAさつま管内では「担い手育成ではJAと行政との連携が不可欠」として、担い手支援室が設置された。さつま農協の関連もあるため当該地域からもスタッフの派遣を要望する	農政課	経営安定対策推進協議会を立ち上げ、米政策改革等に対応すべく体制作りを実施。新政策の推進を強化するため、10月から専任職員を配置し関係機関と連絡調整を図り認定農家及び農家集団との協議・支援等に努め集落営農組織作りに対応する。さつま町の担い手支援室への派遣は考えていない	これまで同様、認定農業者や集落営農組織等の担い手育成に取り組んでいる。		これまで同様、認定農業者や集落営農組織等の担い手育成に取り組んでいる。平成20年度からは、「担い手育成指導業務委託員」を新たに設置し、集落営農の組織化や法人化のための支援体制を強化している。														
H18	2	黒木	県道堂山宮之城線、黒木中から黒木浦までの延長700m、黒木浦から矢立公園入り口までの延長2,600m区間は危険な状況のため、改良舗装の早期工事を要する。昨年8月関係機関に要望したので重ねて県に要請を。また矢立地区の農道大山ノ口線は、早期完成をお願いする	建設政策課	地元より同意書が提出され市も要望を重ねている。川内土木事務所管内の整備計画には登録されたが、厳しい県の予算状況等から実施年度の記載はない	県土木と現地調査を実施。平成19年度測量調査予定		「事業中箇所の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答、今後も引き続き要望してまいります。	H20年度分回答のとおり	回答のとおり												
H18				耕地課	農道大山ノ口線は県の採択枠の減少等により平成17年度から未採択。引き続き平成19年度の県単独補助事業での採択要望を行なっていく	平成19年度県単独事業での採択要望中		平成20年度県単独事業での採択を優先順位第1位として再度要望中	平成20年度で工事が完了した。													
H18	3	上手	施設の設置が決まったことは有難いが、地元へのメリットを考えて頂けないか。現段階での進捗状況はどうなっているのか	財産活用推進課	旧大村高校跡地は介護施設、福祉施設、温泉施設が建設される予定で、事業者側で再度の立案、関係機関との協議を行っており、施設の運営に当たり職員は地元採用を、温泉施設は地元住民へ開放も模索したいとのこと。議会でも施設の建設と職員は地元採用をとの意見があり、事業者側と連携を取り地元地域の方々と共存・共栄できるよう対処したい	(回答中)		大村高校跡地については、地域密着型サービス事業用施設及び温泉施設の用に供することを目的に平成19年度に売却した。福祉施設については、平成20年11月から運営開始予定である。また、施設運営に当たり、地元祁答院地域から職員を採用している。温泉施設については、開設時期は未定であるが、地元住民に開放することとしている。														

祁答院地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	地域振興計画	H18年度初予算	H19年度初予算	H20年度初予算	H21年度初予算	H22年度初予算	H23年度初予算	事業完了		
H18	4	上手	上手地区コミュニティ協議会では集落再編を推進中でこれと並行して新自治会に単独の無線放送施設を設置する計画であるので支援を	防災安全課	自放送施設を設置する場合、市が事業費の2分の1を補助する制度がある。平成19年度からのデジタル方式への移行を予定しており短期間に整備したい				平成21年度から平成25年度にかけて、自治会放送が可能な戸別受信機を整備を計画しており、今後、機能並びに仕様について調査・研究のうえ、機種選定を行う予定であります。補助金制度としては、「広報用放送施設設置事業補助金」がありますが、既設の放送設備の改良を行う場合の運用を基本と考えております。しかしながら、市内全戸への戸別受信機を整備は最長5年必要とすることから、早急な整備を希望される自治会等につきましては、機種選定が終了した、平成22年度以降において、個別に調整させていただきたい。												
H18	4	上手	自治会長宅からそれぞれ繋げられるのか	防災安全課	本庁、支所、消防局、地区コミや自治会からも利用できるものを考えている		平成19年度末に基幹部（親局から屋外拡声子局）に係る入札を実施、平成20年度に基幹部の整備を行い、その後、全戸に戸別受信機（地域内限定放送を可能なもの）を整備する考えである。														
H18	5	上手	合併後の消防団組織の改革により、上手分団のこれまでの三詰め所を一箇所に新設する計画をお聞きしているが、その後の進捗状況を	消防局	旧大村高校跡地の一部を消防局に移管する方向で分筆・農地転用を進めている。上手分団特別点検の際に要請を受け、実施計画への登録へ向け対応したい		平成18年6月、地元からの正式な要望書の提出があり、新設所を旧大村高校下の跡地に19年度に新設する方向で当初予算に計上し議会へ提案したところである	平成19年度3箇所を1箇所に統合し、新設したところである。実施済み													
H18	6	上手	県道下山山田帖佐線の上手浦から漆間の約5kmについての整備が必要。今後も積極的に要望活動を	建設政策課	望の上手浦から漆間約5kmは同一路線で2箇所の工事は財政的にも厳しく、ハイパス工事を優先し年次的に整備したいとのこと。今後も強く要望する		回答の通り	事業中（上手地区）・・・用地事務今後も、引き続き整備促進を要望していききたい。	平成20年度に上手浦地区の工事に着手した、引き続き早期整備を要望していききたい。	上手工区については事業中、引き続き早期整備を要望していききたい。	事業中（用地調査、用地買収）										
H18	7	大村	壁屋から広段に通ずる林道による災害時の迂回路の確保と森林資源の効率的撤出、竹炭・木炭生産活動の促進のため是非改修舗装を	林務水産課	当該路線は国県の補助事業の採択は難しく、早急な取組みはできない。作業道の路面が荒れている部分は現地を調査し路面補修、材料支給等で対応したい		材料支給で地元が対応できるか協議していく	作業道の荒れている箇所については原材料支給で対応している。	作業道の荒れている箇所については原材料支給で対応している。	平成20年度末の回答と同じ	当該路線は国県の補助事業の採択は難しい。作業道の路面が荒れている部分は現地を調査し路面補修、材料支給等で対応している。										
H18	8(1)	大村	大谷林道の完全舗装と景観展望所の設置	林務水産課	未舗装区間は国の補助事業として取り組みができず、市単独も厳しく材料支給等で対応していく。草払等は維持管理の中で実施し展望の確保に努める		未舗装区間の補助事業としての採択が厳しく実施は難しい。草払等については林道の維持管理の予算で実施している	未舗装区間の補助事業としての採択が厳しく実施は難しい。草払等については林道の維持管理の予算で実施している。	未舗装区間の補助事業としての採択が厳しく実施は難しい。草払等については林道の維持管理の予算で実施している。	平成20年度末の回答と同じ	未舗装区間の補助事業としての採択が厳しく実施は難しい。荒廃が著しい箇所については維持管理の予算で実施している。景観展望所の設置については、維持管理、安全面等を考えた時厳しい。										
H18	8(2)	大村	森林資源の活用と林道建設（林道天理線からの延長）	林務水産課	利用区域の拡大等が見込めず延長は難しい。森林資源を有効活用するため路線整備は必要。森林資源の状況等を動察し、作業路、集材路整備で推進する		作業路等での開設が可能か地元と協議していくこととしている	作業路等での開設が可能か地元と協議していくこととしている。	作業路等での開設が可能か地元と協議していくこととしている。	平成20年度末の回答と同じ	森林資源の状況等を動察し、作業路、集材路整備で対応していききたい。										
H18	8(3)	大村	大村古城跡の整備促進（大森小学校裏山城山）	文化課	シラス台地に築かれた関係上、崩落対策が行われている。この城跡を整備するとすれば、民有地の公有化や学術的な調査の必要があり、研究課題としたい		回答の通り	回答のとおり	回答のとおり	回答のとおり	回答のとおり										
H18	9(1)	大村	農業経営安定化対策としての水田の裏作利用のための土地改良について 溜田の排水工事による乾田化事業の推進	耕地課	従来より要望に基づき排水対策工を実施し、引き続き、要望箇所の現地調査し優先順位を考慮し実施する。大規模な場合は、県単独の補助事業の導入も		市単独事業で継続実施中である	市単独事業で継続実施中である	市単独事業で実施しているが、要望が多く市単独では対応できないので、平成20年度地域活性化生活対策臨時交付金事業で一部対応する。	圃場状況調査と地元要望調整により、優先箇所から路渠排水工を実施した。	H22は、祁答院地機全体の要望が多く、地区選定に苦慮し施工できなかった。 H23は、地域活性化交付金を活用し、祁答院地域を優先し施工する計画である。県営中山間地域総合整備事業の計画変更で、出来る限り計画していききたい。										
H18	9(2)	大村	集落営農農団の具体的推進	農政課	主な市内6組織と話し合いを進め、これらの地域を中心に集落営農地区を広く推進する予定。地域・農家の方々と協力し住民検討会、研修会等を開催する		農事組合法人の設立を始め（樋脇町倉野・東郷町藤川）これまで同様、集落営農農団の育成に取り組んでいる	平成19年度、希望自治会等に出向き集落ぐるみの営農活動について説明を行った。平成20年度も、コミュニティ協議会会長会議で、集落営農活動周知説明会開催の協力依頼を行った。今後も、関係機関と連携し、説明会開催希望の自治会等に出向き、集落ぐるみの営農活動の重要性について、周知を図っていく。													
H18	9(3)	大村	裏作・小麦・大豆等の集団栽培の実現	農政課	小麦・大豆等は支援策があるが寒気象条件が厳しく大豆は付加価値がある。飼料作物の推進を。集団栽培する作物を見出し集団栽培の実現へ協力したい		これまで同様、地区の話し合い活動を中心に集団栽培の実現に向けて協力したい	これまで同様、地区の話し合い活動を中心に集団栽培の実現に向けて協力したい。													
H18	10(1)	大村	河川の再改修と水の確保について 井堰による送水路の設置	耕地課	川内土木事務所と協議し現地調査していただいた。井堰の撤去補償を受けた経緯もあり各種協議事項も多く困難な状況。今後、さらに協議を継続する		協議を継続。現地の状況から改修は困難ではないか	H19年度末の回答と同じ	H19年度末の回答と同じ	H19年度末の回答と同じ	県や地元受益者の方と現地調査を行った。自然流下方式への変更は河川管理者の許可が得られないことから、困難であると思われるが再度要望を行いながら、ポンプ施設更新も含めた形での検討を行っていききたい。										
H18	10(2)	大村	川面の草刈対策としての除去推進	建設維持課	河川環境を考慮し、葎の繁茂や土砂の堆積状況を調査し県へ要望していく。この2河川は平成19年度県単河川等防災事業の箇所要望をしている		本年度は、市街地より上流約300mの葎を除去しました。残り約800mについても県に随時要望してまいります	19年度は、上流約300mの葎を除去しました。残り約500mについても県に随時要望してまいります	20年度でも一部実施しました。今後も河川の状況を見ながら、随時県に要望して参ります。												
H18	11(1)	轟	県道川内祁答院線（333号線）、大村報徳学園近く延長100m、幅員4.8mで道路整備が行われていない。改修の早期実現策を	建設政策課	同意取得が厳しい状況と承知している。通行の支障になる立木の枝は、地権者の理解が得られ伐採させていただいた		測量実施中	引き続き地権者と交渉中、「今しばらく時間をいただきたいと思います。」との県回答	回答のとおり	回答のとおり	回答のとおり										
H18	11(2)	轟	問題解決に努力されたが安全面に対する対策は殆どなされていない。簡単に解決しそらないのでその間の具体的な緊急安全対応策を	建設政策課	「スピード落とせ」の文字表示が設置してあるが、まだまだ不十分なので、幅員減少の予告看板や減速表示板等の設置を県にお願いしたい		測量実施中	県にて看板等設置済み													
H18	11(3)	轟	樋脇、山田山県道の整備拡幅工の早期着工	建設政策課	地形図による概略設計が完了。今後予算を確保し、詳細現地測量による設計計画を行なうこととなっている。早期着工に向け、強力な要望をしていく		樋脇地区からも要望があり、直接県土木部長へ要望したが、他地区の進捗状況を見極めたいとの回答であった	「事業中箇所の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答、今後も引き続き要望していききたい。	樋脇地区のH20年度分回答のとおり（樋脇地区と重複するため進捗状況調査対象から除外していただきたい）	国・県事業の実施に関する要望書登録のうえ要望してまいりたい。	回答のとおり										
H18	11	轟	歩道に土木事務所の敷払いの手が届かず、有効活用されていない。シルバー人材の利用はどうか。ふるさと美化活動など努力している	建設政策課	県で伐採や穴の補修を行っているが、手が届かないのと作業班が廃止の方向と聞いている。県に緊急早急に対応いただくようお願いしたい		実施済み	—													
H18	12	轟	林道松木場線の整備は、地権者の同意が得られず工事は中止の状況。何とか同意を得られたので、再度早急に工事の予算処置を	林務水産課	県単林道開設事業として要望しているが、予算が厳しく採択が厳しい。森林施設道としての取り組みが早期にできないか協議をし、決定次第実施したい		補助事業として採択される可能性があるか協議している	補助事業として採択される可能性があるか協議している。	県単林道事業により来年度実施予定。延長：370m 幅員4.0m	平成21年度施工済 L=370m W=4.0m	完結										
H18	13	轟	市道馬場尾、竹下線道路の瀬戸口から竹下入り口までの区間で、水道管の破損や、路肩が緩むなど舗装が老朽化。舗装整備を早急	建設維持課	路面や路肩等に老朽化が見られるが、舗装の状態はいい。路面に穴があくなどあれば、対応する。要望の区間の舗装整備は、舗装面を見ながら対応を検討		今後、舗装の状態を見ながら検討します	19年度は、極端に悪いところは補修しましたが、今後、舗装の状態を見ながら補修をします。	今後、舗装の状態を見ながら補修をします。	21年度（横越）で、県道宮之城加治木線側から520mについて舗装工事を発注済みである。残りの区間についても、今後路面の状況を見ながら随時対応して参りたい。											
H18	14	蘭牟田	県道宮之城加治木線の歩道建設の促進について川内土木事務所に陳情しているが、前向きな返答は得ていない。今後も引き続き要望を	建設政策課	歩道が途切れ途切れに設置され、通過車輛も多く大変危険。平成19年度県単独要望としてすでに提出し、県で調整中。再度県に対し要望していく		回答の通り	「事業中箇所の進捗状況を見極めながら早期着工に向け検討したい。」との県回答、今後も引き続き要望していききたい。	H21年度に工事予定。引き続き、早期整備を要望してまいりたい。	蘭牟田駐在所付近L=258mを整備した。引き続き早期整備の要望を望んでまいりたい。	平成21年度に引き続きJAさつま蘭牟田SS付近まで、L=256mを整備した。										

祁答院地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	施設振興計画	H18当初予算	H19当初予算	H20当初予算	H21当初予算	H22当初予算	H23当初予算	事業完了			
H18	15	蘭牟田	蘭牟田小学校のプールは昭和32年10月に建設され、ひび割れや水漏れの箇所も多く老朽化が進行している。是非改修建設工事を	教育総務課	学校施設は基本調査と耐震化優先度調査を実施し整備計画を策定する。この調査結果や他校とのバランスを踏まえ、改修の時期と方法を検討していきたい		学校施設の基本調査の結果、蘭牟田小学校のプールについても老朽化が確認されていることから、実施計画に掲載を要望していきたい	学校施設の基本調査の結果、蘭牟田小学校のプールについても老朽化が確認されていることから、実施計画に掲載を要望していきたい	学校施設については、校舎・屋内運動場の耐震化を優先することとしているため早期の改修は非常に難しい状況である。	学校施設については、校舎・屋内運動場の耐震化を優先することとしているため早期の改修は非常に難しい状況である。	学校施設については、校舎・屋内運動場の耐震化を優先することとしているため早期の改修は非常に難しい状況である。											
H18	16	蘭牟田	平成19年度から入来町の給食センターから配食とのことだが、蘭牟田小学校の調理室の利用計画があるのかお伺いする	教育総務課	最新の設備を備えた家庭科室が整備され、家庭科調理室として活用することは難しい。郷土料理伝承や料理教室の場として利用ができれば検討したい		回答のとおり、給食調理室を授業で活用することは難しいことから、大型の調理器具の利用方法及び部屋の活用方法について、今後検討していきたい	学校において必要としない調理器具については、学校と協議したうえで、平成19年度中に、希望者を公募し、売却した。												○		
H18	17	蘭牟田	指定管理者制度が実施され、蘭牟田池周辺の管理も鹿兒島市の業者に委託しているが、苦情をよく聞く。充分な管理を	観光課	再度指定管理者と現地確認や協議を実施し、直ちに除草作業を指示し、除草作業を確認しており今後も指導を徹底し適切な観光施設の運営に努める		実施済													○		
H18	17	蘭牟田	施設管理者と地元の商工会、観光協会、地域と顔つなぎができていない。会合を持ち議題がはげれば、温泉のごことで指定管理者と協を	観光課	管理をお願いしたのは市で、いろんな問題点も調整し、現場の方々と地域の方々との顔つきを、気軽な連絡、声かけも必要。意向を業者に伝えたい		調整中	蘭牟田池・百年杉ステージ・竜仙館の指定管理者である。特定非営利活動法人鹿兒島N E T総研については、市観光協会へ入会して頂き各種イベントの協力を頂いている。 また、地元の方を中心とした、いむた池語ろう会を立ち上げ、今後の観光地としてどうあるべきかを協議いただいた。 温泉施設については、いこいの村いむた池が対象となるが、市観光協会への加入は以前から入会頂いており、いむた池を語ろう会のメンバーにも加入いただいている。 その他の蘭牟田地区内の公衆浴場については、H19年度に地元の方へ民間譲渡をされております。	蘭牟田池・百年杉ステージ・竜仙館の指定管理者である。特定非営利活動法人鹿兒島N E T総研については、市観光協会へ入会して頂き各種イベントの協力を頂いている。 また、地元の方を中心とした、いむた池語ろう会を立ち上げ、今後の観光地としてどうあるべきかを協議いただいた。 温泉施設については、いこいの村いむた池が対象となるが、市観光協会への加入は以前から入会頂いており、いむた池語ろう会のメンバーにも加入いただいている。 その他の蘭牟田地区内の公衆浴場については、H19年度に地元の方へ民間譲渡をされております。	平成20年度末と同じ	平成21年度末と同じ								○			
H18	その他	—	自治会・墓地の水道料金は無料だった。若者が帰るオール電化にしたが水道が循環で水圧が少なく利用できない。パイプの入れ替えを	水道課	合併後全体的に、自治会・墓地等の水道料金をいいただいている。全体的な方針でご理解いただきたい。水圧不足は、場所を教えてください検討したい		平成19年度中に工事発注	本年度、工事完了					○							○		
H18	その他	—	林業が不振であるが祁答院町は森林が多い。中国に木造住宅など林業の需要が発生し、市内の木材を輸出すれば林業の発展に繋がる	企業・港振興課	再建中の関係団体があるが、川内港から建設のための木材を輸出したいと聞いた。材を運ぶシステムに仕上げれば、林道の整備も必要になると思う		過去に川内港からコンテナで木材を輸出しており、祁答院町の木材を輸出できれば林業の発展にも繋がるため、関係団体と協議をしていきたい													○		
H18	その他	—	目を覆うばかりの事件が起きている。市でも水面下では小さなものがあると思う。教育委員会ではどのような施策、指導をしているか	学校教育課	表面上はないが、絶対ないとはいえないのでは。青ハトの関係で事業を展開している。青少年の健全育成のためにも、しっかり取り組んでいく必要がある		各小中学校は、スクールガードを組織し、児童・生徒の登下校の安全確保に努めている	各小・中学校には通学路等の安全マップを作成させ、それらを活用した安全指導や不審者対応訓練等を実施させている。また、スクールガードを組織させ、地域と一体となった児童生徒の安全確保にも努めるよう指導している												○		
H18	その他	—	児童クラブの助成金がカットされた。他にさつまいもを作ったり、おそば、ソーマンを注文して何とか運営している状態である	子育て支援課(こども対策室)	児童クラブなど放課後の安全・安心の施設・指導は大変重要なので来年度の当初予算の中で考えていきたい		民間の児童クラブに対しては、県の補助事業として取り組み、県の要綱に基づき、公平・平等に助成を行うとともに予算措置しているところである	児童クラブに対しては、県の補助事業として取り組み、県の要綱に基づき、公平・平等に助成を行うとともに予算措置しているところである					○							○		
H18	その他	—	通学路に草が出ていて危ない。ライトもついておらず、段差もあるのでPTAからの意見としてあげたい	建設政策課	現場を確認し、本来は県でやるべきだが、地権者の理解が得られたらボランティアでもできないところは職員で対処したい		実施済み	—												○		
H18	その他	—	九州電力に対するお願いである。災害等の際の対応に営業所により差がある。川内営業所の方に配置替えを	企画政策課	同じ薩摩川内市にそういう不自由な面があるときは早く改善していくべきではないかと九州電力へお願いしたい		広報室より対応済。 (九州電力から回答をいただき、すでに報告済み)	—												○		
H20	1	黒木	県道堂山宮之城線の未整備地区の早期整備について県道堂山宮之城線は、浦・矢立・木場集落から黒木町へ通ずる生活道路、児童・生徒の通学路でもあり、矢立農村公園・県民の森へのアクセス道路である。黒木中から黒木浦までの延長700mは、幅員が狭隘でカーブが多く大変危険な状況にあり接触事故等も多発している。地区住民の永年の懸案事項として、地権者の同意書を添付し関係機関に要望書も提出してありますので、この区間の改良舗装の事業採択と早期着工を県に要請していただきたい。	建設政策課	県の道路整備については、限られた予算の中で、地域の実情や市町村の意向を十分考慮しながら、優先度による一層の峻別と重点化を図るといふ、県の基本的な方針に基づいて、整備を進めている。この路線については、現在、矢立地区で整備を進めており、厳しい財政状況の中、事業中箇所の実質的な整備を進めたいという考えである。重要箇所の整備の必要性については十分認識しているところであるが、一部用地交渉が難航しており、用地の協力が得られれば事業化の優先度も高まることである。 本市としては、今後も早期整備を要望するとともに、県とともに地権者の協力が得られるよう努めてまいりたい。		回答のとおり。 矢立地区ではH21年度も局部改良工事予定。	矢立地区を整備中	平成22年度に矢立地区L=175mを整備													
H20	2	黒木	県道薩摩祁答院線の歩道建設について当該路線は、黒木南集落から黒木町へ通ずる主要道路であり、児童・生徒の通学路ですが、近年車の往来が多い為大変危険な状況に有り、数年前まで年次的に歩道の建設を進めて来ていただいておりましたが、その後建設が中断しておりますので、黒木会田団地入り口付近から(有)祁答院土木前まで350m区間の歩道の早期建設を県に要請していただきたい。	建設政策課	黒木南地区から黒木小へ7名の児童が、黒木地区から祁答院中へ25名の生徒が通学路として利用しているところである。 当該路線の地域は、2車線が確保されており見通しも良く、道路整備等は予定されていないところであり、県においては、厳しい財政状況の中、事業中箇所の進捗状況や交通事故の発生などの緊急性、また、用地が絡むため地権者の同意・地元の協力など歩道整備に対する熱意等を見極めながら検討してまいりたいとのことである。 本市としては、県の事業中箇所の円滑な事業推進を要望するとともに危険箇所の早期整備を要望してまいりたい。		H21年度に測量設計業務委託予定。 引き続き、早期整備を要望してまいりたい。	引き続き早期整備の要望してまいりたい。	回答のとおり													
H20	3	上手	自治会運営補助金の見直しについて平成20年度は合併後4年目になり、各自治会とも4回目の予算編成を行い20年度の自治会活動に取り組んでいる。合併を機に、自治会運営補助金は減額の一途をたどり平成20年度は、前年比平均10万円前後減額となり、本年度は事業費・役員手当等を減額しながら各自治会苦勞し調整されたようである。上手地区では伝統芸能保存活動・六月灯・夏祭り等季節の行事も少なくないよう地域住民の協力を得て取り組んでいる。運営補助金が現状のまま続けば、地区の負担金の引き上げをするか、活動を縮小するかを選択を迫られている。地域では高齢者の世帯が多く年金主体の世帯にこれ以上の負担増をお願いできないので、自治会運営補助金の改善を要望する。	コミュニティ課	旧市町村にて自治会運営補助金に格差があったため、合併協議において市町村合併後は各地域の公平性を保ち、一体感の醸成を図るため、補助金の算定は、県のルールに基づき支給額を決定し、平準化を図る旨が決定されている。 そのため、補助金が多額であった地域は、平成17年度から平成19年度までの3年間で年次的に減額し平準化したため、平成20年度については、全市域を同様の基準で交付している。したがって、平成21年度は、平成20年度とほぼ同額になる。 現在の算定基礎は、世帯規模割(50世帯以下は42,700円、51~100世帯は45,200円)に世帯割(1世帯当たり2,330円×世帯数)を定めて算出している。 今後、自治会の活動状況、収支状況、各世帯毎の負担額、地域毎の高齢化などを参考にしながら、ご意見の趣旨も踏まえ、この補助金の額について検討していただきたい。		平成21年度に補助金の見直しを実施する。 自治会の活動状況、収支状況、各世帯毎の負担額、地域毎の高齢化などを参考にしながら、ご意見の趣旨も踏まえ、この補助金の額について検討する。	平成22年度からゴールド集落支援を開始することから、補助金の拡充は見送った。 今後、支援活用内容等の実証をし、検討したい。	ゴールド集落活性化支援事業の中でゴールド集落への支援を行っているところである。 今後、支援活用内容等の実証をし、検討したい。													

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	進捗状況 (H22年度末)							
												地区振興計画	H18年度初予算	H19年度初予算	H20年度初予算	H21年度初予算	H22年度初予算	H23年度初予算	事業完了
H20	4	上手	河床整理(奇り洲除去)の実施について毎年6月は「河川愛護月間」として、自治会事業のなかで河川清掃が実施(日程は各地区・自治会により異なる)される。河川清掃については、防災・国土保全・環境美化という認識を持って取り組んでいるが、河川の現状は、よしが増え併せて奇り洲が大きくなり流れの妨げとなり、また、清掃作業は草刈機・チェーンソーでの作業があり、高齢者の参加も不足感が懸念作業中の危険度も高くなっている。このような現状であり、今後作業の安全確保・河川の氾濫防止のためにも河床整理(奇り洲除去)の要望をする。よし刈については、特殊な機械等があれば市で対応はできないか。	建設維持課	要望箇所の久富木川・秋上川の2河川は、県(北陸地域振興局建設部)の管理する川であるが、本市で調査をし、県に要望を行っている。その結果、実施するということで、2月2日に自治会長、県・市の職員で現地確認が終わり、間もなく作業に入っていくことである。				よし等の伐採については、20年度でほぼ終了した。河床整理については、県に要望しており予算の状況を見ながら、今後実施する予定である。	21年度は、県で秋上川の河床整理を実施して頂き、800mの土砂を除去した。久富木川についても引き続き県に要望して参りたい。	22年度は、秋上川・久富木川の河床整理は未実施であった。引き続き県に要望して参りたい。								
H20	5	大村	大村地区住宅団地への定住者促進対策について大村地区住宅団地は、旧祁答院町時代に団地造成を目的に、当時の区有地を町に譲渡して造成を図り、当初の計画では特定公共賃貸住宅14戸と分譲宅地12戸を目標として建設された。現段階で特定公共賃貸住宅8戸が完成、分譲宅地4戸が購入されている。先般居住者の一人の転出のため、入居希望者を募ったところ、1戸の住宅に6名の希望申し込みがあったと聞いている。環境と住宅様式が現在の若者のニーズと合うことから、希望者が多かったのではないかと考える。祁答院地域の過疎化を考えると、ききやん(薩摩川内)への定住促進と併せ、風光明媚・自然豊かな祁答院地域大村地区への定住促進を強く期待し、当初計画どおり特定公共賃貸住宅の建設を当局に要望したい。	建築住宅課	祁答院地域は、合併前から住宅マスタープランを策定し、積極的に住宅行政に取り組んで来ている。中でも、特定公共賃貸住宅(中堅所得者向け、若干間取りも広く、家賃が少し高い住宅)など若者のニーズに合った住宅を町内6箇所に建設し、地域の活性化を図ってきた。今回、要望のある大村地区住宅団地については、町が造成し、当初14戸の住宅建設予定だったものが、平成14年度から15年度にかけて8戸の特定公共賃貸住宅を建設し、その後、建設予定地は分譲地として一般に公募されている。市町村合併後の薩摩川内市全域の地域別公営住宅充足率をみると、世帯数当りの市営住宅数の割合が、全体平均5.3%に対して、大村地区は10.9%と、かなりの充足率の高さを示している。また、国の住宅政策見直しにより、公営住宅については、量の確保から質の向上へ、既に整備してある住宅を有効活用するという考え方に変わってきており、市の財政上からも、新規住宅建設については、厳しい状況である。今後、民間の方による住宅建設、又は現在売り出し中の分譲地を個人で購入し住宅を建設していただけないか、PRをしていただけないかと考えている。				市町村合併後の薩摩川内市全域の地域別公営住宅充足率をみると、世帯数当りの市営住宅数の割合が、全体平均5.3%に対して、大村地区は10.9%と、かなりの充足率の高さを示していることから、新規住宅建設については、厳しい状況である。今後、民間の方による住宅建設、又は現在売り出し中の分譲地を個人で購入し住宅を建設していただけないかと考えている。	市町村合併後の薩摩川内市全域の地域別公営住宅充足率をみると、世帯数当りの市営住宅数の割合が、全体平均5.3%に対して、大村地区は10.9%と、かなりの充足率の高さを示していることから、新規住宅建設については、厳しい状況である。今後、民間の方による住宅建設、又は現在売り出し中の分譲地を個人で購入し住宅を建設していただけないかと考えている。	平成22年度で策定した市営住宅等長寿命化計画において、特定公共賃貸住宅の大村団地への建設はしないこととした。							○	
H20	6	大村	大村公園の施設整備について大村団地宅地造成と合わせて、ふれあい活動の場として、ゲートボール場の設置をお願いして立地としての造成はしていただいたが、全体が芝生になっており、ゲートボール場としては利用できないので、コート部分を剥離して土を入れ利用可能な状態に整備していただきたい。また、付設のトイレは簡易トイレを設置していただいたが、手洗い用の水道がないので早急に取り付けしてほしい。公園としての管理もコミ協が市の理解により積極的に環境整備や美化を図り地区民のふれあいの施設として利用の活性化を図りたい。	建設整備課	大村公園については、平成16年度に大村団地宅地造成と併せて、ふれあい活動の場として、事業費約16,000千円を投資し、芝生広場と実履及び駐車場の施設整備を行ったところである。芝生広場にゲートボール場の設置の要望については、市内の他の公園の整備状況を見ながら検討したい。いずれにしてもこの広場は、平成16年度に整備を行い、期間もそれほど経過していないことから、芝生広場の有効活用策についても検討したい。また、本年度設置した簡易トイレの手洗い用の水道については、平成21年度に整備するよう予定しているところである。なお、これまで同様、公園内の清掃等もきめて美化活動に御協力いただきたい。				水道施設整備を実施予定。		平成21年度給水施設及びゲートボール場整備済								○
H20	7	轟	県道川内祁答院線の大村報徳学園近くの未改良区間の早期整備についてこの件につきましては、前回の平成18年度のふれあい市民会議でお願いしましたが、再度お願いするものである。未改良区間は、延長が100m、幅員4.8mですが、通学路でもあり、児童生徒は危険な状況にある。毎年開催される、大栗小学校の児童安全確保総合対策委員会でも早期改良の要望がある。安全対策として、看板等を設置していただいているが、危険な状況は解決していない。県事業であり地権者の相手もあることで簡単に解決しづらいが、地域住民の安全対策として市でも積極的な対応をお願いしたい。なお、前回お願いした以降、市としてどのような対応をされたか説明をお願いしたい。	建設政策課	県において、「この先幅員減少」や路面表示、カーブミラー等により注意喚起を行い、車両交通の安全確保に努めているところである。前回のふれあい市民会議以降も、県北陸地域振興局へ要望を行うとともに、支所や地域の方と連携しながら、県とともに地権者の協力が得られるよう努めているところであるが、同意を得るに至っていない状況である。地権者の理解を得ることが第一だと思っているので、今後も地域の方と連携を取りながら慎重に対応し、解決に向け努力していきたい。				回答のとおり	回答のとおり	回答のとおり								
H20	8	轟	林道松木郷線的全線早期開設整備について 当林道は林道開設全長1,413mで、平成13年度に着手して未開設部分約400mである。地権者の同意を得ることが出来ず工事が中止の状況となっている。工事着手前に十分な地権者の同意を得ていなかったことが原因で頓挫したが、何とか地権者から同意を得ることが出来たので、再度早急に工事の着手をお願いしたい。前回の回答で県単林道開設事業として県と協議をすることとしたが、その経緯と可能性についてご説明いただき、厳しい状況であれば、県単独事業以外の事業を検討され、早急に工事着手をお願いしたい。	林務水産課	来年度、県単林道開設事業により工事を実施する予定である。				県単林道事業により来年度実施予定。延長:370m 幅員4.0m	平成21年度施工済 L=370m W=4.0m	完結							○	

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H17年度末)	進捗状況 (H18年度末)	進捗状況 (H19年度末)	進捗状況 (H20年度末)	進捗状況 (H21年度末)	進捗状況 (H22年度末)	施設開設計画	H18当初予算	H19当初予算	H20当初予算	H21当初予算	H22当初予算	H23当初予算	事業完了			
H20	9	蘭牟田	蘭牟田池周辺を観光地らしく整備を世界一郷水車を初めとする竜仙郷一帯は蘭牟田池の入口のひととして観光客の注目のともなる重要な場所である。竜仙郷から「仙人の泉」を通ってアクアタイムまで、森林浴を楽しめるウォーキングコースができています。このコースにおいて、「仙人の泉」から水が出なかったり、木が倒れて道をふさいでいたり、整備がなされていない。もっと観光客の身になって考え、主要な所は点検し、整備していただきたい。蘭牟田池ではベッコウトンボ観察会などがよく行われるようになったが、トイレが適当な場所がないという声が聞かれる。民家にトイレを貸してくれと来る人もいと聞く。整備していただきたい。	観光課	「仙人の泉」については、平成2年、当時の副蘭牟田池池長が個人で建立され、その後、町に寄贈された石碑である。蘭牟田池の電伝説にあやかり、出合いの泉としてハイブで導水されていたが、現在は水が出ていない。 そこで、朝霞元町長、施工業者など関係者に尋ねるなどして、調査した。その結果、水源は竜仙郷の専用水道で、そこから分岐して導水しており、平成13年頃、導水を中止したことが分かった。 仙人の泉については、その水量の管理が難しく、水が付近の路面に溢れ出てコケが張って滑ったり、河川の法面が崩れるなどしたため、安全上の理由から導水を中止したとのことである。したがって、再度導水するとなると、これらの安全対策等に十分配慮する必要があるため、これらを含め導水の必要性について十分検討させていただきたい。 次にトイレ整備について、現在、蘭牟田池の周辺には、既に4箇所設置されているが、北西側には設置されていない。 今後のトイレ整備の考え方としては、既存の老朽化したトイレについては、必要に応じて再整備する必要があると考えているが、それら以外の新たな場所に増設することは考えていない。 ラムサール条約登録地となった蘭牟田池は、景観や環境に特に配慮する必要があり、極力、人工的な構築物の設置は避ける必要がある。特に、池の北西側は、ベッコウトンボの生息地でもあることから、極力、人の手を加えず自然に近い状態を保全する必要がある。 また、池の周辺は、徒歩でも約40分と比較的短時間で周遊できることから、既存トイレの場所や各トイレまでの到達所要時間等を案内表示することにより、観光客や地域住民の理解を促していきたいと考えているので、御理解賜りたい。				回答概要のとおり	回答概要のとおり	回答概要のとおり											
H20				林務水産課	遊歩道（ウォーキングコース）は、平成13年度から15年度にかけて、国の補助事業（フォレストコミュニティ総合整備事業）で整備したものである。 維持管理については、現在は、シルバー人材センターに維持管理を委託し、年3回（1月梅マラソン前、3月花見前、7月夏休み前）、草刈等を実施している。 申出の件については、本年1月に草刈・清掃等を実施したので、現在では、自由に通行できるようになっている。 今後も定期的な見回り点検等により、状況に応じた維持管理を行いたい。もし、通行できない場合や木の枝等が落ちていた場合は、連絡をいただければ、すぐに対応する。				維持管理について、現在は、シルバー人材センターに維持管理を委託し、年3回（1月梅マラソン前、3月花見前、7月夏休み前）、草刈等を実施している。 今後も定期的な見回り点検等により、状況に応じた維持管理を行いたい。	前年度同様	完結											
H20	10	大村	蘭牟田池観光客への案内と指導を適切に蘭牟田池を訪れる観光客の中に、弁当の残りなどゴミを捨てたり、ペット同伴者がらんの始末をされなかったり、水鳥に威嚇させるなどマナー違反者が多く、近くの住民の方々も大変苦慮されている。これらの対策のために、市で案内人・監視人を数名配置して、観光客への対応をするようにしていただきたい。関連して、市と蘭牟田池住民との連絡会を1年に1回くらいは持っていただきたい。	観光課	案内人については、現在、市観光協会において観光ボランティアガイドを養成中であり、今後も引き続き増員していく考えである。蘭牟田池もこのボランティアガイドにより対応したい。 監視員については、現在、蘭牟田池自然公園に2名の管理人が配置されており、自立してマナーの悪い入園者には、注意指導を行っている。また、昨年、蘭牟田池地区の各種団体の代表者や会の代表に賛同される方々、市議員等から成る「いむた池愛好会」が結成されて、蘭牟田池の自然環境保全への取り組みが始まっているので、これらの活動を通じた啓発により入園者のマナーアップを図ることができるとは考えている。 蘭牟田池周辺にお住まいの方々との連絡会については、今後、定期的に年4回、「いむた池愛好会」の会議が開催されることになったので、それに合わせて、年1回程度、意見交換の場が作れればと考えている。今後とも引き続き御理解・御協力を賜りたい。				回答概要のとおり	回答概要のとおり	回答概要のとおり											
H22	1	黒木	小・中学校の統廃合問題及び人口増対策について	学校教育課	子供たちにとって望ましい学校教育環境を整えるための学校再編等を今回の「薩摩川内市立小・中学校再編等に関する基本方針（案）」及び「同基本方針」に基づき、推進したい。						各地域で説明会を開催したりして、保護者や地域の方々から幅広く意見や要望等を伺い、児童生徒が学びあひ高めあうことができる程度の規模で、小中一貫教育をより効率的に推進できる学校づくりを目指し、平成22年12月「薩摩川内市立小・中学校の再編等に関する基本方針」を定めたところである。今後、この基本方針に基づき保護者や地域の理解と協力を得ながら小・中学校の再編等を推進していくこととしている。											
H22				企画政策課	人口増対策について、定住促進という形で回答したい。本市では市外からの人口流入、或いはU・I・Jターン等の促進するため、いくつかの定住施策を講じている。地域活性化・人口増対策は単に行政のみで達成できるとは考えていない。市民・地区コミ・自治会等多くの方々等の御協力が必要となるので、引き続き御支援等をお願いしたい。						転入者を対象とした転入補助金については申請件数及び転入者は増加傾向にある。引き続き定住補助制度のPRを行いながら、地区コミュニティ協議会や自治会と連携を図り、定住支援を推進したい。H23・25年度の制度について、協議を行い、制度の見直し及び拡充を行った。											
H22	2	上手	県道「薩摩祁答院線」の道路改良について	建設政策課	県へ要請したところであるが、県も財政状況等厳しいとのこと、なかなか進んでいないのが実情である。しかしながら、交通安全上問題があることは認識しているので、県道の整備状況を見ながら、地元の熱意は熱意で受け止めさせていただいて、地域の方々の取り組んでいきたいと思う。						回答のとおり											
H22	3	大村	一級河川瀬早川、久富木川の河川敷地内に、植樹をしたいので、ご配慮願いたい。	建設政策課	河川区域内における竹木の植栽は、河川の正常な流れに支障を及ぼすなど、治水上の理由から河川管理者の許可を受ける必要があるところである。これは、河川法で規定されている。但し、堤防の裏側等の植栽ということであれば、県へ市としてお願いによって要する等お手伝いしてまいりたい。						回答のとおり											

祁答院地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H17年度末）	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	進捗状況（H20年度末）	進捗状況（H21年度末）	進捗状況（H22年度末）					
											地区振興計画	H18当初予算	H19当初予算	H20当初予算	H21当初予算	H22当初予算
H22	4	轟	農道世永瀬線改良舗装工事について、お願いしたい。	耕地課	祁答院地域では、他にも農道改良の要望があることから、他にも現地調査の必要があり、優先順位を地元との調整をさせていただきながら、検討することとした。また、実施するとなると、地元の同意とか地区間の優先順位の譲り合い等地域の皆様の御理解と御協力をお願いしたい。											
H22	5	蘭牟田	岡山～千貫線の林道への格上げ及び拡幅についてお願いしたい。	林務水産課	条件がそろそろであれば、林道・作業道・作業路等の路網整備というものをしっかりと林業経営等の企業導入の目的と合致するかを真剣に検討し、現地協議会・現地調査を実施の上、考える方向が国の方針に合致するかを見定めながら検討させていただきたい。											